

市議会六月定例会行政報告

八月十八日を「米の日」と制定

市議会六月定例会が招集された六月七日、畠山市長が行政報告を行いました。その中から主なものをお伝えします。
なお、六月定例会で審議された議案などについては、次号でお知らせします。

農作物異常気象対策協議会の設置と農作物の生育状況

今年の冬は暖冬少雪で推移したため、夏季の水不足や果樹等の凍霜害が心配されることから、四月十一日に農作物異常気象対策協議会を設置し、生育に影響を与える気象情報及び対応技術について、広報車などを活用し迅速な周知を図ってきました。

この結果、

降霜による農作物の被害は比較的軽微です。また、リンゴについては、開花が五月十三日から十五日となつたものについて、曇雨天と低温のため、局地的に「カラマツ」(実を結ばない)現象が発生しています。

次に、水稲の生育状況ですが、播種は平年より二日遅れて始まったものの、育苗期間は天候に恵まれ苗は平年並の生育でした。田植作業は、始期五月十六日、終期同月二十三日で、平年より二日ほど早く終わっています。苗の活着状況は、五月中旬に田植えされた苗に、植え傷みがありました。そのほかは発根も順調で、良好です。

なお、農業用水については、

今後の天候次第では用水不足が心配されますので、節水と計画的な水利用に努めるよう指導しているところです。

「米の日」制定

稲作には、米価に算定されないさまざまな効用が含まれています。それは、水田が持つ治水、治山の国土保全機能や土壌流出防止機能です。稲の栽培が同じ土地で、しかも土壌の荒廃を起すことなく、長期間続けられてきたということは、水田ならではのことで、稲作には、このように多面的な効用が含まれているのです。

そこで市では、市民に幅広く「米」に対する理解を深めていただき、生産者と消費者の結合を図り、米の消費拡大と地域農業を守り発展させるため、八月十八日を「米の日」と制定しました。

金属鋳業研修技術センター

市では昭和六十二年度から、鋳業及び鋳山地域の振興を図る

目的で「金属鋳業研修技術センター」の北鹿地域への誘致に向けて、関係機関と協議を進めてきました。その結果、今年四月に同センターの北鹿地域への設置が決定しました。

このセンターの主要施設は小坂町に置かれますが、演習施設は、当市の花岡鋳業株式会社松峰鋳山、深沢鋳山などに分散配置される計画となっています。同センターが設置されると、今後、北鹿一体の地域開発、振興に大きく貢献するものと確信しています。

企業誘致の状況

市の誘致企業として、花岡鋳業団地に一社の進出が決定しました。現地法人名「株式会社フレックス」で、従業員二十三人、十一月操業に向け準備を進めています。

また、市内に本社のある「東光鉄工株式会社」が、同工業団地に最新工場を建設することになりました。従業員は四十八人で、九月操業開始の予定となっています。

その他の報告

- ▽大館市養護老人ホーム改築事業
- ▽市宮狐台住宅建築事業
- ▽昭和六十三年各会計の決算見込み

市長メモ



No.11

県北空港

県北空港の建設候補地が大野台の一角、鷹巣町中屋敷地区に決まりました。大館を含めた三十四候補地の中から、科学的な調査等の結果、選択、決定されたのです。

しかし、問題はこれからです。「空港の周辺に何がありますか。どんな計画がどう進められますか。どこの空港に何を運ぶのですか。」等々の質問に、答えることのできるものが何もないのです。県北のセールスポイント、空港の具体的計画を持たずには仕事は進まないのです。

もう一つは「空港を造ろう」という声は行政のみではないか、もっと民間、つまり経済界からの積極的な動きがなければとても無理だ」という声です。それとおどろだと思えます。そこで、六月五日に開かれた高速交通体系整備促進県民大会では、「行政と民間経済界と共に促進運動に取り組み、全県民の盛り上がりを図ること」など、行動する運動体づくりを提案してまいりました。

あしな